

書 評

金出武雄 著

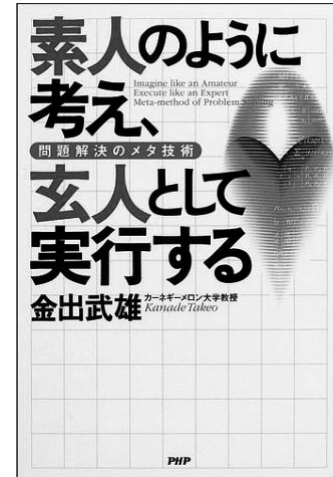
素人のように考え、玄人として実行する 問題解決のメタ技術

PHP 研究所

ISBN 4-569-62457-x

2003 年発行

評者：大阪大学 竹村治雄



本書の著者は、バーチャルリアリティ、ロボティックス、コンピュータビジョン分野の研究者ならば必ず知っているであろう、カーネギーメロン大学教授の金出武雄氏である。しかしながら書籍の内容は著者の専門分野の専門書かという、そのタイトルからしてわかるように、そうではない。(もちろん、内容の理解には情報科学に関する知識があるほうが親しみを持って読めることは間違いないが...) 本書は著者のこれまでの研究者、教育者、研究ディレクターとしての体験に基づく事例集であり、さまざまな事例を通して問題を解決するための方法論を論じたものであるととらえられる。著者の経験に基づく内容のため、当然、コンピュータに関する研究開発の事例が中心となるが、その本質は研究に限らず一般的な問題解決にも適用可能であるとされており、一読すると確かにビジネスや家庭など一般的な社会生活においても当てはまる事項が述べられていると納得できる。

本書は4章で構成されており、第1章は「素人発想・玄人実行」という本書の主題である、発想や研究のシナリオ作成に関する著者の経験に基づく考えが紹介されている。第2章では、問題解決のためのノウハウやそのために教育がどうあるべきかを著者の日本、及び北米での教育者としての体験に裏付けられた考えが紹介されている。第3章は、他人に自分の考えを理解させるためのプレゼンテーションはどうあるべきかという(?)、プレゼンテーションに関する著者の考えやさまざまなノウハウが紹介されている。第4章は、これまでの著者の北米での生活体験に基づいて、国際社会の中で日本とアメリカ、日本人とアメリカ人を比較、論じて日本、あるいは日本人に求められているものを「決断と明示のスピード」であると章のタイトルに示している。それぞれの章は合計48の節からなり、それぞれの節は短いエピソードで構成

されているため、大変読みやすく構成されている。その意味では気楽に読める構成であると同時に、内容的には本質を見据えた議論がなされていると感じた。

今まででも、本書と同じような日米の社会背景の差異について論じた本は多くあるが、研究者の立場で書かれたものはそう多くないと思われる。そういった意味でも、これから国内外で世界を相手に研究開発を志す若い世代にはぜひ読んでもらいたい書籍である。その一方では、非常に多くの内容が凝縮されているため、消化不良を起こし著者の主張することが正しく伝わらない可能性があることを指摘したい。たとえば、3章では良いプレゼンテーションに関する3つの逆説として、「プレゼンテーションは準備するな」、「スライドには多くのことを書くな」、といった内容の節があるが、これは、著者のようなプレゼンする問題を完全に理解した発表者が実践できる内容であって、初めて国際会議で発表する、英語も駆け出しレベルの研究者がそう簡単にまねできるわけではないといわざるを得ないし、万が一それをまねても良いプレゼンテーションはできないと思われる。

一方、若い世代でなくても、本書は日ごろ外国出張の際に感じる日本と欧米社会の違いについて、やはりそうなのだと思える点が多く、日本でこれからのリーダーとして活躍しようという世代にも推薦できる。また、著者の成功が大変な努力の上に成り立っていることを知ることができる点でも有益な書籍である。

評者も、早速この本を研究室の若い世代に読んでもらおうと研究室のスタッフに数冊本書を購入し、学生・スタッフで回覧するようにと半年ほど前に指示をした。その成果を確かめようと最近確認したところ、回覧は助手のところまで6ヶ月も止まっていたことがわかった、残念である。